

戦争と平和を考える特別旬間 —各地の取り組みから—

被爆62年原爆と人間展に2351人が入場
土浦平和の会 井上 仁志



今年も8月3日から9日までの1週間、県南生涯学習センターギャラリーにおいて“原爆と人間展”が開かれました。入場者は

去年の1400人を大きく上回って2351人でした。広島平和資料館から借りた原爆資料パネル約70枚がギャラリーいっぱいに表示されて、入場者の足を釘付けにしました。受付ではヒロシマに送る折鶴を折って行く人、核兵器廃絶署名、憲法九条を守る署名をしていく人も数多く見かけられました。

ピースデーにも130人以上の入場者

2007年平和のつどい

助川弘之前市長を実行委員長として市内の民主的市民団体協力のもとにおこなわれる平和のつどいが、今年も8月15日終戦の日市民会館で「蟻の兵隊」の上映会をおこないました。終戦後の中国に残留し内戦を戦わされた兵士たちが、帰国後戦後補償を求めて裁判闘争を始めるが、“逃亡兵”扱いにされてしまう。司令官の無責任な戦犯のがれの密約の証拠を探っていくドキュメント映画。中国で明らかな事実が日本の歴史の中で証明されない戦後処理の隘路をどうしたらよいか・・・

原爆と人間展の中の日曜日（5日）におこなわれたピースデーは午前中映画「ゴジラ」、午後「長崎の鐘」が上映されたこともあって入場者はのべ130人以上となりました。例年どおり土浦市が広島の平和祈念式典に派遣した8人の平和使節団の報告や岩井市の被爆者茂呂さんの体験談、朗読の会の大西陽子さんの「この子たちの夏」からヒロシマの詩の朗読がありました。今年の会は中学生など若い参加者が多かったことは平和を語り伝えるという意味で大きな収穫があったと思いました。

アンケートにみる写真展

常陸太田平和の会 福田 亘男

1 原爆パネル展

8月14日（火）から6日間、市生涯学習センターに於いて、広島・長崎での被爆写真や絵画、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験、そして、米・旧ソ連の核爆発実験場等の写真パネルを展示公開しました。

当会として、この様な催しは初めてで、宣伝、広報もせずまたお盆の期間で、初めどうなるかと言う気もありましたが、五十嵐会長による達筆な大看板を玄関先に立て、取り組みました。

全体で150名以上の来場者があり、内3分の1近くの方がアンケートに応じてくれました。

特に、夏休みの補習でセンターに来ていた高校生がパネルにもアンケートにも真剣に対してくれたこと、家族連れで来た子どもたちも一緒に良く見てくれたことは印象的でした。

アンケートに見る

- 1 回答者のなかで半数以上の方がこの様なパネル展を見たとのことでした。
- 2 80%以上の方が当市の核兵器廃絶平和都市宣言を知らないこと。
- 3 感想・意見の中、見たことのある人、ない人含めて、一番多かったのは展示会を今後もやって欲しい（中に学校などでも）。二番目は、戦争や被爆などがないようにしてほしい。その他、憲法のことや平和教育などについてありました。

2 平和の鐘

当会では8月15日正午を期し、「平和の鐘を鳴らしていただく「お願い」の文書を15の寺院に郵送しました。

会員の小倉さんが前もって話しておかれた田渡町の寿松院において、当会員5名と家族1名による鐘撞きを行いました。今後他の寺院へもお願いし広げていきたいと計画しています。

鹿行9条の会発足

お盆前の8月11日、潮来市津知公民館で、30人が参加し念願の鹿行9条の会が発足しました。

鹿行地域にはこれまで9条の会がなく運動が遅れていました。今回は広域でまず発足させて今後、各地域ごとに作っていくことにしました。

代表委員には大川和泉・大川賢雄・加藤節子・小久保莊一の各氏、事務局には風間道夫・佐藤正美両氏を選出しました。

また、第2部では県被爆者協議会事務局長の茂木貞夫さんの「広島・原爆の体験」談を1時間にわたって聞きました。

美和・緒川平和の会総会開かれる

8月4日、旧緒川村のつつじ荘で16名が参加して開かれました。

首相が先頭になって憲法改悪を叫ぶ事が当たり前のような状況は「我慢がならない」という戦争体験者の話から始まり、美和・緒川でも9条の会を発足させる事を申し合わせました。

また、9月29日の大宮での「日本の青空」上映会を成功させる事も決めました。

総会のあとはみんなでバーベキューで舌鼓を打ち、和やかな内に散会しました。



平和かわら版

No. 479

月3回発行

平和新聞茨城版

2007.8.25

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



筑波地域でも9条の会が始動

筑波地域憲法9条の会 世話人 山本 千秋

つくば市は、6か町村がさみだれ的に合併した市ですが、「筑波地域」は市の中心部から15km離れた北部で、筑波山を含む旧筑波町域のことです。つくば市全域をカバーする「憲法9条の会つくば」が2年前から活動しており、科学技術分野をカバーする「筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会」も「講演と対話の集い」を重ねています。

ただ活動の重心は、どうしても研究学園都市やつくばエクスプレス沿線開発でにぎわう中心部に片寄ります。しかし、活動の最終目的は、「9条改憲ノーの有権者を過半数獲得する」ところにありますので、学園都市の華やかさとは縁が遠い「周辺地域・旧村部・旧住民」にも、「九条守れ」の声を届け、運動を広げていく必要があります。

こうした思いの中から、「9条の会つくば」の会員で筑波地域に住む者が中心になり、昨年7月に準備会を立ち上げました。6～7名の世話人で活動の進め方やイベントの企画、筑波地域での署名活動などを行ってきました。今年2月には、20余名の参加を得て「筑波地域憲法学習と戦争体験を聴く会」を開き、日体大緒方章宏教授の「やさしい憲法9条の話」と、筑波地域在住者の「シベリア抑留」や「予科練」の体験を聞きました。

そして、今年6月、会の会員の存在である賛同署名が30筆に近づいた機会に、「筑波地域憲法9条の会」設立総会と講演の集いをもちました。水戸翔合同法律事務所の丸山幸司弁護士から「憲法9条を変える動きと憲法を守る運動」の講演をいただき、総会では、会の目的など4点の申し合わせ事項を確認し、筑波地域で賛同者を広げ、署名や学習・交流を進める活動方針を承認しました。保守的といわれる地域で、何をどれだけやれるのか、まだまだ手探りの段階です。改憲の動きに遅れず、しかし、焦らず、背伸びせず、身の丈にあった活動をとっています。

原水爆禁止2007年世界大会 in 長崎

核兵器なくそうの熱い想い

多くの青年が大会に参加

県南農民組合事務局 平川 智之

私は62回目となる核兵器の廃絶、平和を願うこの大会に参加してきました。



大会前、私は戦争や核兵器はとても遠くの存在で自分とは関わりの無いものだ意識していました。今回初めて大会に参加し、一番に驚いたことは、若者の参加者が非常に多かったということです。なかでも、夜間に行われた「青年の集い」では全国で多くの同年代の方々が運動を起こしていることを知り感銘を受けました。

大会前、全国で「21万羽折鶴プロジェクト」という運動が進められてきました。62年前たった2発の原子爆弾によって広島と長崎で21万人もの命が奪われました。21万羽の折り鶴を前にして、あの日に消えた命を思い起こし二度と同じ過ちを繰り返さないと決意を固め合うことができました。その他にも、インターネットを通じて参加者を集め月に一度被爆者のお宅を訪れ対話をしている方や9条を守るために運動している方、ミクシー（ネット掲示板）を通じて大会に参加した方等各地での運動について知ることが出来ました。また、被爆者の貴重なお話も聞かせていただきました。

被爆者の谷口さんは「歴史を忘れたら繰り返すだ！」「最後の被爆者にして欲しい！」というメッセージを私達に託され、その想いを継承し多くの若者に広めていく大切さを学ぶことができました。

大会には海外からの参加者も多く、広島・長崎の原爆パネルを海外の方々に託し世界に大きな発信となることを願う催しも行われました。

悲劇を繰り返さないために

長崎での3日間は平和について考えさせられる内容深い1日1日となりました。ここで終わるのではなく被爆者の方々、長崎・広島の方々の想いを日本全国、世界全体の問題として考え、戦争のもたらす悲劇を認識しなければいけないと感じました。

最後になりますが、御支援いただきました皆様方に感謝致します。大切な学習の機会を与えていただきありがとうございました。

北茨城市「まちの寺小屋」



「憲法ってなあに？」

ごいっしょに考えてみませんか

とき 9月29日(土) 午後2時～

ところ 関南多目的集会所大ホール

参加費 無料

講師 丹 賢 一さん

(日本民主法律家協会会員市内関南町神岡上在住)

共著「ふる里からの憲法運動」

主催 北茨城・憲法問題学習会

(問い合わせ先) 46-5611 (藤田) 46-8833 (穂積)

事務局便り

会員の皆さん、読者の皆さん、暑い夏いかがお過ごしですか？
さて、憲法9条を守る運動は大きく発展し、先の参議院選挙で歴史の逆流に對し国民がNOを突きつける結果となりました。これはこれで喜ぶべき事です。しかし、アメリカ・財界は改憲を新たな装いで策動してくるでしょう。
それをうち破る一つの力は平和委員会（平和の会）の拡大にあります。歴史的な闘いに心躍らせ共に尽力しましょう。
(加)